

## 「丈六町住民説明会」(第12回) 質疑要旨

日時：平成29年5月16日(火) 19:00~20:40

場所：丈六コミュニティセンター 体育館(徳島市丈六町八万免)

出席者：市民34人、徳島市6人

質疑応答の概要は次のとおり。

Q.	今後のスケジュールを教えてください。
A.	今年度中の基本計画の策定を予定しています。地元の理解を得られてから実質的な事業がスタートとなるため、ご理解をいただくための資料づくりとして着手したい考えで、進捗に応じて説明会を開催します。
Q.	地元合意のタイミングは、いつ頃と考えているのか。
A.	今年度策定予定の基本計画案は、地元了承を得て成案になると考えています。単年度予算であるため、年度末を目標と考えています。
Q.	基本計画の策定期限は翌年3月31日ということか。
A.	単年度予算であるため、年度末を目標としています。
Q.	資料では「最有力候補地の選定」となっているが、新聞では、決定と書いていた。どちらが正しいのか。
A.	最有力候補地が正しいです。
Q.	7市町村で行われていた協議会の後継組織として、現在ある6市町村での会が再構成されたのか。
A.	その当時の協議会の再結成は行われていません。
Q.	1日379台の通行という話であるが、現地は道が狭いため、ある程度道路整備が必要と思うがどう考えているのか。
A.	現地も確認し、朝夕の通行量が多いことも聞いています。最有力候補地に建設するのであれば、交通対策は不可欠であると考えていますが、どのような対策をするかはまだ決まっていません。今後も意見や要望を伺いたいと思います。
Q.	どこまでの反対があれば、事業を白紙とするのか。飯谷町の賛成があれば事業を進めるのか。
A.	地元の理解をどこまで得られればと定義することは難しいです。今後も地元住民との話し合いを進めさせていただきたいと思います。
Q.	搬入ルートの確認だが、以前の説明会で勝浦川南岸を通ると説明していたと思うが、どうか。
A.	勝浦川の北岸より、小松島側にあたる南岸が有力であるという説明はしましたが、確定しているものではありません。

	道路事情も今後に向けての検討課題です。
Q.	何も決まっていない状態では、説明会として意味がない。事業内容を決めてから説明会を開くべきである。
A.	順を追って、進めていきたいと考えた結果です。 今回の説明会では、候補地選定までの経緯や現有施設と先進地施設の比較等の説明をただけです。今後は事業概要の策定を進め、その都度説明会を開催します。
Q.	説明会資料にある、実測値の数値はいつのデータなのか。
A.	本市の施設につきましては年4回、季節ごとに測定を行い、それぞれの測定データの中で一番悪い数値を掲載しています。 東淀工場の測定時期については不明です。
Q.	現有施設と先進地施設の法規制値が異なるのはなぜか。
A.	法規制値については、施設が新しいほど、規模が大きいほど厳しくなります。それぞれの基準は、建設した際に設定されるため、建設当時の基準となります。
Q.	法規制値より厳しい数値とあるが、なぜ厳しい数値を定義するのか。
A.	法規制値は当然守るべき数値ですが、それで満足することなく、自ら厳しい目標を立てることで、環境配慮に取り組むことができると考えます。詳細は何も決まっていないため、数値を示すことはできませんが、昨今の技術の向上により数値を下げる可以考虑とを考えています。
Q.	実測値の測定場所はどこか。
A.	煙突出口の排出前の場所で採取し、測定しています。
Q.	東淀工場の実測値より低くすることはできないのか。
A.	設計段階にないため、お示しすることはできませんが、値を下げる努力はします。
Q.	交付金申請のタイムリミットはいつか。
A.	国の交付金制度は、継続する前提で考えていますので、ご理解を得られてから直近のタイミングにあわせて申請することになります。 遅れた場合には、翌年以降の申請となります。
Q.	交付金の申請を、市から県を通じて国に提出するにあたり、県と協議をしていると思うが、何回協議を行ってきたのか。
A.	交付金の申請に関するものにつきましては未協議であり、県に対して計画の打診もしていません。今年度の策定を予定しています。
Q.	交付金の申請書類について、把握はしているか。
A.	循環型社会形成推進交付金申請のために、循環型社会形成推進地域計画を策定、提出をする必要があります。
Q.	今回の地元説明会で一通り終了するとのことであるが、地元合意について、どのような方法を考えているのか。

A.	覚書を交わすのも一つの方法と考えていますが、どのような方法が良いかは相談させていただきます。
Q.	覚書の相手は個人か、または町内会を想定しているのか。町内会はあくまで任意団体であるため、町内会と交わすのであれば、住民に十分な説明する必要があると考えるがどうか。
A.	方法については書面の交換が考えられますが、相手がコミュニティなのか、住民団体なのか、協議の中でどの形が最良かを考えていきたいです。何をおいても住民の理解を得るのが一番です。
Q.	リサイクルセンターとは、現在のマリンピアにあるような施設が移ってくるのか。
A.	詳細は関係市町と協議中ですが、飯谷町、丈六町及び東沖洲にあるリサイクル施設に業務委託している機能が、集約される形になります。
Q.	6市町全ての資源ごみや不燃ごみが搬入されるのか。
A.	詳細につきましては、収集品目が異なるため今後の協議で決められます。
Q.	リサイクルセンターへの車の台数はどれだけ増えるのか。
A.	資料にある379台の中に含まれています。
Q.	次回の説明会はいつ行うのか。
A.	中身のある内容が整ってからの実施と考えており、できるだけ早く行います。
意見	覚書を結ぶことは肝心であるが、市は誰と結ぶのかをハッキリと決めてもらいたい。町内会という任意団体は責任を逃がられるし、無責任を決め込むこともある。色々な方法を検討してもらいたい。
意見	今後説明会を開催する際は、出席者が増えるよう平日1回、土日1回の開催をお願いしたい。また、覚書を結ぶ際は、公開の場でやってもらいたい。
意見	論田町、国府町での地元対策について、今後示してもらいたい。
意見	今回の周知文の配布時期が、町内会によって大幅に違っていた。できれば、次回の説明会については全戸郵送配布をしてもらいたい。

以 上